



## ～ 会員作品展開催される ～

恒例の会員作品展が今年も3月4日(木)から6日(土)まで大会議室にて開催されました。

書14点、日本画15点、洋画19点、陶芸写真等8点と出展数56点は、昨年同様の出品数でした(2～4頁に全作品掲載)。新型コロナウイルス流行による緊急事態宣言が発出されている中、昨年の来場者数100名を大幅に超す165名のお客様が来場し、大変好評でした。

どの作品からも出展者の熱い意気込みが伝わる素晴らしい力作揃いでした。

来年も多数の傑作の出展を期待しております。

書道部、墨画会等日頃の活動の成果のほか、小唄会の皆さんには、のど自慢の小唄を作品として披露していただきました。

なお、各部会の共通の課題は新規会員の入会です。ご関心のある方は、事務局(杉本)までご連絡ください。

※集会委員会と小唄会が共同で毎年開催してきましたロビーでの懇親パーティーは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年に続き今年も中止となりました。

(集会委員長 石川通敬)

## ～ 倶楽部活動報告(小唄会) ～

### 小唄発表会が開かれました

小唄会幹事 魚部皓

小唄も(無形)文化であり、その発表会は「作品展」であるとの認識で始まった小唄発表会が、今年第13回目を迎え、作品展中日の3月5日(金)午後3時から、食堂を模様替えて舞台を作った特設会場で開かれました。

コロナの影響で、昨年同様お客様を積極的にお誘いしなかったこともあり、聴衆は密を案ずるほどのこともなく、出演者も最終7名と少なく、1時間10分余で千種楽を迎えました。例年は、出演者も10名前後で2時間近くかかり、その後作品展の出品者、お客様合同の懇親パーティーへと流れるのですが、緊急事態宣言下でもあり、若干の立ち話程度で散会しました。

この発表会は、小唄会員にとってお客様の前で唄う唯一の機会、日頃の稽古、精進の成果を見ていただきたいと力を入れている行事なのです。

日本倶楽部小唄会は、2000年5月に発足し、8月を除く毎月、月例の小唄会を開いております。そのうち、1月は新年会としてグランドアーク半蔵門で、3月は小唄発表会、10月は赤坂たい家で芸妓の小唄振り付き(唯一の贅沢!)の特別例会を行っています。発足以来21年で、休会したのはコロナで倶楽部が休館になった2ヶ月のみ、今年4月は第235回の例会でした。文化委員会の中でも活動している部会の一つかと思えます。

問題は会員数です。現在は、休会2名を含め13名。ピークは19名(2006年)でしたが、今は漸減一方です。倶楽部の新入会員に働きかけはしていますが、小唄の経験者が殆んどいない昨今の事情から苦戦しています。そこで皆さん、「小唄はやらないことに決めている」という方々に、「シニアのための小唄考」とでもいいたしよるか、駄文をまとめました。

「小唄は短い」これが最大の特徴です。邦楽の中で短詩型といわれる端唄を母とし、歌沢を姉として江戸末期に誕生したのが小唄で、一曲1～2分で唄い終わる曲が多いのです(大曲といわれるものでも4～5分)。また「一丁一枚」といって三味線(糸)一人、唄い手(唄)一人が原則で、稽古も本番もマンツーマン方式が基本です。

稽古は、歌詞のみ渡されて音譜はなく、師匠からの口伝で曲を覚えます。テープかICレコーダー(これは必須!)に師匠に吹き込んでもらい、家でも聞き次回稽古に臨みます。オートリバース機能付きでシャワー状に繰り返し聞いていけば、一曲はかなり早く上がります。この達成

感が大事で、次なる曲への意欲に繋がります。

「小唄の詞が素晴らしい」江戸の粹人に好まれて普及した小唄は、「粹」「通」「洒落」を大切に、「野暮」を嫌います。詞は短い中に色々な思いを込めています。詞をしっかり理解することが第一です。「小唄は口で唄うな。心で唄え」「小唄は年を重ねるほどに味が出てくる」ともいいます。

「小唄の節(フシ)が素晴らしい」小唄は、邦楽の中で最後に誕生した種目で、創始者は当時16歳の天才少女、清元お葉。清元一派の師匠達をはじめ長唄、常磐津など各流各派の名手達が新しく生まれた小唄に参画し、邦楽の粹を集めて江戸小唄(古典小唄)を完成させたと言われています。この沿革は現代小唄にまで連なっており、小唄を通じて他の邦楽の美しい調べを知ることもできるのです。

このような素晴らしい日本の文化に、一人でも多くの方に触れていただきたく、本文を認めております。「小唄は入りやすいが奥が深い」とも言います。その通りです。まずは短い曲を中心に唄える曲をふやす。唄える唄がふえることは楽しいものです。

小唄を始めてみようかというとき、気になるものは「声が出るか」ということです。確かに使わないほど退化します。出しているうちに改善することも期待できますが、人の喉笛からくる制約があります。小唄では、三味線の調子(〇本で表示)(洋楽でいうキー)で高さを調整します。また「高音が特に苦手という方は多いと思いますがこれには奥の手の裏声(洋楽のファルセット)が有効です。いろいろ道はあります。

「正座できないよ」大丈夫です。正式には正座し、背筋を伸ばして唄うと声がよく出るというのですが、今は椅子で唄うのが普通になってきています(月例小唄会の会場も和室から特別会議室に移しました)。

小唄で、腹式呼吸で喉を広げて大きな声を出すことは、誤嚥性肺炎の予防になるかも。劇場やホールで開かれる大きな小唄演奏会に行くと出演者も聴衆も高齢者が多いのに驚きます。健康だから小唄を続けているのか、小唄をやっているから健康なのかと自問自答している昨今です。

実際に小唄を聞いてみるのが一番です。小唄に関心を抱かれた方は見学をお勧めします。3月の小唄発表会は曲解説付きで参考になりますが終わったばかりなので、月例会へどうぞ。事務局へ連絡していただければ、取り計らいます。